

日本を美しくする会・鍵山教師塾主催

第34回「鍵山教師塾」 in 朴の森

～教化ではなく感化～

感想文集



令和8年6月27日（土）・28日（日）

■ 日程

《27日（土）》

10:30 集合・受付@鍵山記念館

11:00 開会式@鍵山記念館

11:30 昼食@耕心の里

【実践発表①】

牟礼中学校生徒の皆様

【実践発表②】

北島幸三先生

14:30 参加者交流

15:00 講話 代表 鍵山幸一郎氏

16:00 初日閉会

16:20 掃除道具準備

17:00 懇親会@一隅の里

《28日（日）》

7:00 バス・ホテル出発

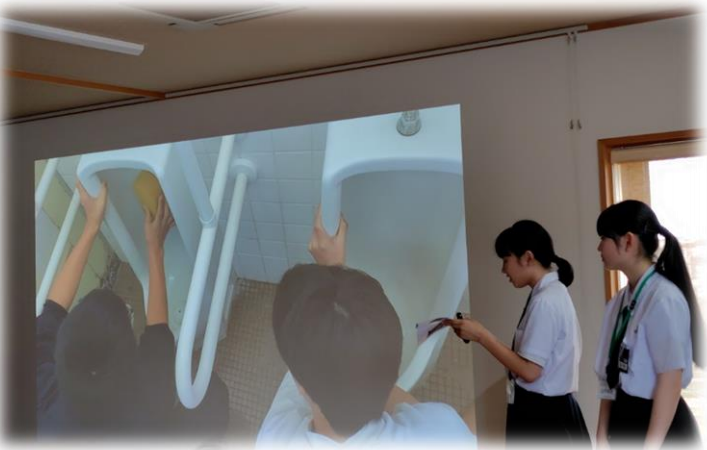
7:45 防府市立牟礼中学校着

8:45 トイレ掃除実習

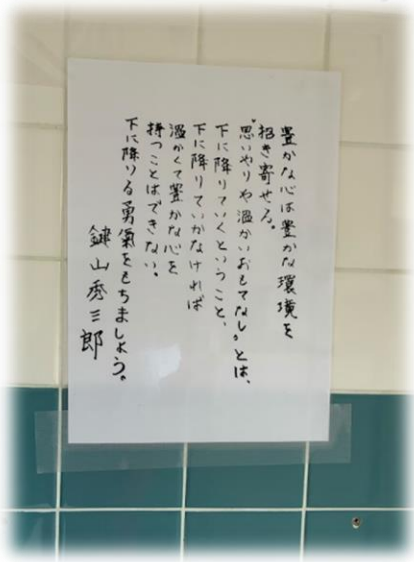
10:45 着替え

11:15 閉会式・解散











「教化ではなく感化」―鍵山教師塾に参加して―

★★ 沖縄県・教員・北島 幸三 ★★

「教化ではなく感化」というテーマのもと、主催者、参加者の皆様方から、多くの学びと気づきを得ることができました。ありがとうございました。

初日に掃除に関する講話を聴き、二日目には牟礼中学校のトイレ掃除を実際に行いました。その中で最も心に残ったのは、「人は言葉によってではなく、姿によって動かされる」という考え方です。例えば、「履物をそろえなさい」「時間を守りなさい」「掃除をきれいにしなさい」と伝えることはできます。しかし、本当に大切なのは、自身がその姿を示しているかどうか。「時間を守るということは、相手の時間を大切にすること」であり、それは「相手を尊重すること」につながる。そして、相手を大切にすることは、自分もまた大切にされる。そうした信頼関係の積み重ねが、よりよい人間関係をつくっていくのだと感じました。

今回繰り返し語られていたのは、「教えること」と「感化すること」の違いでした。相手を動かそうとして言葉を尽くすのではなく、自らが行動することで周囲が納得し、やがて自分自身で気づき、動き始める。そのとき初めて、その行動は「やらされるもの」ではなく、「自分で選り取った本物の行動」になるのだということを学びました。

実際に掃除を行う中で、長年「掃除に学ぶ会」で活動されている

方々や、教師塾を支えてくださっている皆様の姿を見て、その意味を感じとりました。誰かに言われたから掃除をするのではなく、その真摯な姿に触れ、「自分もやりたい」と自然に思えてくる。まさにそれが感化であり、人の心を動かす力なのだと感じました。

私は教師という立場上、授業の組み立て方や伝え方、指導の技術を磨いていくことは大切にしたいと思っています。しかし、それと同時に、より大切なのは、自分自身がどのような姿勢で日々を過ごしているかということ。どれだけ立派な言葉を並べても、自分が実践できていなければ子どもたちの心には届かない。本物の教育とは、教師自身の生き方そのものが子どもたちへのメッセージになることなのだと、皆さんの姿勢を間近でみさせていただくことで、改めて強く感じました。

また、実際のトイレ掃除の際に幸一郎さんがおっしゃっていた「後始末を大切にすること」という考え方も印象に残りました。後始末を丁寧に行うことは、単なる片付けではなく、次につながるための準備である。掃除をし、整え、次の人が気持ちよく使える状態をつくる。その積み重ねが、人と人とのつながりを生み、活動を広げ、深めていくのだという話、強く印象に残りましたし、皆さんの掃除の姿を見て、肚に落ちました。

今回の教師塾には、地元の中学生在が参加し、生き生きと発表する姿、トイレ掃除に打ち込む姿を目にしました。掃除を通して学んだことが、確かに次の世代へと受け継がれ、広がり、深まっていることを実感しました。その広がり是一直線ではなく、螺旋を描くよう

に、少しずつ大きく、豊かになっていくものなのだろうと感じました。

最後となりますが、私には私の教育現場があります。同じ実践を、そのまま行うことはできないかもしれません。しかし、「教化ではなく感化」という根っここの部分は必ず大切にします。自分自身がまず行動し、その姿を通して子どもたちと関わっていきます。その決意を新たにさせていただいた今回の教師塾でした。頭だけではなく、心と体を使いながら学び続ける教師であり続けたいと強く感じさせていただいた教師塾でした。

ありがとうございました。

追記

7月11日(土) 午前中、教師塾での学びを活かし、また、沖繩掃除に学ぶ会の皆さんの協力をえて、現任校でのトイレ掃除実践を計画していました。しかしその11日の午前中に、私は自宅でこの文章を書いています。昨日から台風9号が沖繩を直撃、今回の学校でのトイレ掃除の取り組みは中止となりました。

教師塾の後、鍵山慎太郎さんより、「北島先生の学校での掃除実践に参加したい」との言葉をいただきました。慎太郎さんに加え併せて山口市掃除に学ぶ会や朴の森の関係者、路佳さんも含めた5名の方が、飛行機やホテルをとって参加していただけることになっていました。天気には逆らえないとはいえ、(私の生徒たちにも皆さんの掃除をする背中を見ていただける貴重な機会であったの

で・・・)今回の中止、残念でならない気持ち、大きいです。

それでも、慎太郎さんや路佳さん、山口の皆さんから参加に向けてお声をかけていただいたこと、そして実際に動いてくださっていたこと、とても嬉しかったです。皆さんの行動する姿から多くの勇気をいただきました。学びもありました。

ありがとうございました。

今回は実施できませんでしたが、また勤務校で企画し、調整し、続けていきます。

★ ★ 東京都・教員・山崎 敏哉 ★ ★

4年目の鍵山教師塾in 朴の森でした。「積み重ねてきたもの」を随所に感じることできた学びの時間でした。緑の深まり、実践の深まり、参加者一人一人の前進の視点で述べていきます。

(緑の深まり)

今回、これまでの教師塾ではじめて中学生のみなさんからの実践報告がありました。立志式での発表です。これまで何度もトイレ掃除実習の場として使わせていただいている牟礼中学校の生徒さんです。朴の森と牟礼中学校のご縁の上に教師塾としてご縁をいただき校長先生のご理解のもと中学校の田中先生、山口先生のご尽力により、今回の発表となりました。

「リーダーが自ら磨きます」「私たちの何かが変わりました」「続きたいという気持ちがあった」「(言われていないのに思わず)感想を

タブレットで送った」など、生徒さんたちの実感を伴った言葉の数々に感動の連続でした。生徒さんの瑞々しい感性と具体的な実践に触れ、「負けていけない!」自分も持ち場でよりいっそう尽力していきたいと思いました。

(実践の深まり)

前回も参加してくださった沖縄県の北島先生のご実践には、心震えました。3月に東京で行われた教師塾にて北島先生が発表されていて、このお話をぜひ朴の森のみなさんにも聞いていただきたいと思い、無理を言ってお願いをしました。お忙しい時期にもかかわらず、参加を表明してくださいました。ところが、台風が迫ってきたことで、沖縄から参加できるかどうか心配な状況となりました。北島先生は、前々日に沖縄を経たれ、前々泊をして当日に臨んでくださいました。

「一人や二人でもやる」「そんなにすぐには変わらない」「おきなかったことは評価しにくい」など、謙虚なお言葉の中に垣間見える志に触れ、火が灯された感じがしました。北島先生の誠実なご姿勢と、実直なご実践に接して、自分の職場に置き換えて考え、自分の実践の浅さ、思いの弱さを痛感しました。

幸一郎さんのお話の中で、危機管理のお話がとても心に残りました。「リスクをとること」「リスクをとらないこと」という基準を自分の中に常にもっておきたいと強く思いました。

(参加者一人一人の前進)

今回はリピーターの方が半分、初参加の方が半分ほどでした。リ

ピーターの方がこの1年間で、それぞれの持ち場で実践を深めてこられたことが分かるお話をたくさん伺うことができました。年に一度朴の森の場に集うことで、教師塾の目的である「鍵山秀三郎氏の掃除・生き方に学び、自分の持ち場で実践する」という軸をお互いに確認することができました。

中学校の掃除では、卒業生である高校生が参加してくれたことも印象的でした。母校愛と友達に会えることと、掃除の思い出を胸に参加してくれていました。

朴の森スタッフのみなさんのお心配りには毎回本当に感謝しています。ネームプレート、お茶のシール、お弁当、座席など、見える部分だけでなく、私たちの見えないところでもたくさんのご準備、後始末があったことと察します。同じ運営委員として共に準備を進めてきたスタッフの中村悠味子さんの気配りにもたくさんさんの感動と学びがありました。トイレ掃除実習の道具説明で、後片付けまでお話ししてくれたことは、「次の人のことまで考える配慮」としてとても勉強になりました。

1年前の教師塾の感想で、「自分もみなさんと切磋琢磨しながら、まずは鍵山先生の心願である学校でのトイレ掃除を深められるところまで深め、一人掃除も継続し、幸一郎さんが示してくださいました『自分分は二の次』という人間になれるように、日々努力していきたいです」と書いていました。掃除の継続、自分は二の次という実践は、1年間で前進していたとは思いますが、深められたかといえば浅いところが多いので、これからも継続して深めていきます。

最後に、多大なるご支援をいただいた幸一郎さん、朴の森のスタッフのみなさま、いつもご厚意で学びの場を提供してくださる牟礼中学校の校長先生はじめ、教頭先生、山口先生、田中先生、生徒のみなさん、この度は誠にありがとうございました。

「教化から感化へ」

★★ 東京都・教員・中村 路佳 ★★

台風の影響で直前まで天候が危ぶまれていた「鍵山教師塾」ですが、当日は快晴に恵まれました。このような青空の下で開催できたのは、鍵山秀三郎相談役が天国から温かく応援してくださっているお陰にほかなりません。感謝の気持ちを抱きながら臨んだこの会は、私の教師としての生き方を根本から見つめ直す、とても深い体験となりました。

鍵山幸一郎代表のお話や現場のリアルな葛藤、子どもたちを信じる尊い実践報告を伺い、自分自身の教育活動の大切な指針を得ることができました。それは、子どもたちを言葉や規則で教え込む「教化」ではなく、教師自身の生き方や姿勢によって心を通わせる「感化」こそが、本質的な変化を生むということです。

講演の中で考えさせられたのは、「つもり病」という言葉でした。私たちは日頃、物事を分かったつもり、できているつもりになりがちです。耳の痛いことを言ってくれる人を無意識に遠ざけ、自分の外側に都合の良い「答えさがしの場所」を求めてしまう。人は元来、

自分本位なところがあり、放っておけば自己中心的な考えに支配されてしまいます。この姿勢こそが自らの成長を止め、周囲との関係性を薄くしている原因なのだと気づかされ、深く反省いたしました。ここから脱却し、生き方を「自分本位から他人本位」へと大きく転換させていくこと。それこそが、鍵山教師塾の「立志」の第一歩なのだと感じています。

その他人本位の生き方、すなわち「教化ではなく感化」の具体例として発表された牟礼中学校の皆さんや北島先生のお姿には、とても心を打たれました。特に、生徒会による「立志式」とトイレ清掃の発表では、「自分たちの学校を良くしたい」という一心でひたむきに取り組む中学生の姿がとても純粋でした。自らの行動で学校を変えようとするその姿そのものが、周囲への素晴らしい「感化」になっていたのだと思います。また、北島先生の中学校における実践発表からは、人間の可能性を信じ抜く教育の原点を見せていただきました。荒れた環境の中、北島先生が孤独にトイレ清掃を始め、奮闘し続ける姿。私自身も教師という同じ立场上、その苦しみに共感いたしました。だからこそ、先生の「すぐには変わらない」「すぐに変わることは大したことではない」という言葉が、心に響きました。

私たちはつい即効性のある成果を求めてしまいがちですが、規則で縛る「教化」で一時的に行動を変えさせたとしても、すぐに元の状態に戻ってしまいます。すぐには変わらないからこそ、じっくりと時間をかけて心に染み込ませた変化こそが、本物なのだと教えられました。少しずつ周囲を巻き込みながら荒れが収まっていく歩みは、

相手の「感性」に訴えかける「感化」の力そのものでした。

この一日目の学びを胸に、次の日、トイレ清掃の実践に臨みました。開会式の際、会場校の山口先生がご挨拶の中で、「おかえりなさい」と温かい言葉をかけてくださり、前任の田中先生から繋がった人と人との「縁を太く」し、「繋がる」ことの本当の意味を、まずこのご挨拶から実感することができました。今回、私はサブリーダーという役割をいただき、参加者の皆様のフォロー役に回りました。

過去の経験から、どこかで「やり方は分かっている」という思い込み（つもり病）があったことを省みつつ、リーダーの中村悠味子さんの姿に改めて学びました。道具の使い方から洗練された仕草、便器に向き合う真摯な眼差しまで、そこには上から正解を教え込むような「教化」の姿勢はなく、ただ目の前の環境を整えようとする純粋な意志があり、いかに自分が表面的なリーダーであったかを深く省みる機会となりました。

そして、今回の場を陰で支えてくださった鍵山記念館「朴の森」のスタッフの皆様にも、感謝の気持ちでいっぱいです。きめ細やかな配慮やご準備、迅速で美しい片付けの姿に頭が下がる思いでした。私たちが心地よく心を整えることができたのは、スタッフの皆様が「誰も見ていないところ」で、まさに「陰徳」を積むようにして場を整えてくださったからです。その立ち振る舞いそのものから、多くのことを学ばせていただきました。

私は今回、自分の心が不思議なほど綺麗に整っていくのを感じました。理想と現実の「両立」に悩みながらも、この小さな「凡事徹底」

をおろそかにせず「気づく、繋がる、続ける」というサイクルを続けていく。その積み重ねの先にしか人との縁は太くならず、人間的な「箔が付く」こともないのだと思います。

「豊かな人生」とは、物質的な成功ではなく、周囲の素晴らしい実践に「感化」される素直な「感性」を持ち、自らもまた、小さな実践によって他者を善なる方向へと「感化」していけるような関係性の中にこそあります。

鍵山相談役が見守ってくださった教師塾での学びと実践は、私の教師観を見つめ直す大きな契機となりました。すぐには変わらないかもしれませんが。しかし、すぐに変わらないからこそ価値があります。私は、自分の教育現場という目の前にある小さな実践を積み重ねていく中で、子どもたちと共に心を整える歩みを粘り強く続けていきたいと思っています。

最後に鍵山幸一郎様をはじめ朴の森のスタッフの皆様、藤野先生、利顧問、井辻快調、北島先生、牟礼中学校の皆様、田中先生、そして教師塾参加者の皆様に心より御礼申し上げます。

「鍵山教師塾 in 朴の森」第4回を終えて

★★★ 京都府・京都掃除に学ぶ会・時政 和輝 ★★★

この度も本研修会にて素晴らしい学びの機会をいただき、実行委員・運営メンバー、朴の森スタッフの皆様、そして牟礼中学校の皆様には厚く感謝申し上げます。何よりも台風が接近する中、皆様と思

いを一つにして集まれたことが大きな喜びでした。公共交通機関の影響などで、やむを得ず参加できなかった方や途中からの参加となった方もおられましたが、非常時だったからこそ分かち合えた感動もあったように思います。朴の森スタッフや運営委員の皆様が、不測の事態にも見事に対応され、滞りなく進行・運営されたことに深く敬意を表します。

1日目の実践報告会では、まず牟礼中学校の皆さんの発表を拝聴しました。田中先生や山口先生に感化され、トイレ掃除の実践に力を入れ、さらにそれを全校生徒へ広げようとされている強い思いに胸を打たれました。「立志式」の節目にトイレ掃除に取り組もうとする姿勢には驚かされましたが、道徳の時間に視聴した『トイレ掃除で日本が変わる』が大きな契機になったとのこと、大変感銘を受けました。やはり鍵山秀三郎先生の提唱されたトイレ掃除には、人の心を動かす大きな力があるのだと改めて実感いたしました。

もう一つの実践報告は、牟礼中学校とは対照的な環境にある、沖縄の荒れ気味な中学校での取り組みでした。北島先生の「学校や生徒を何とかしたい」という強い思いと、校内のトイレ掃除に踏み切られた勇氣に感動いたしました。しかも、そのきっかけが昨年の鍵山教師塾であったことも嬉しく受け止めました。北島先生は「トイレ掃除をやったからといって、学校が大きく変わったとは言えませんが」と謙遜されていましたが、確実に生徒と先生の間信頼関係が芽生え、少しずつ場が変わっていく様子に驚きを覚えました。「箸よく盤水を回す」「大きな努力で小さな成果」という言葉の通り、結

果を急がずひたむきに取り組む姿勢こそが、周囲へ確実な感化を及ぼすのだと実感いたしました。

これら真反対の2つの事例を聴き、もし自分がそれぞれの環境に身を置いていたらどうだっただろうか、と思いを巡らせました。掃除を大切にする環境にいれば自然とそう馴染むでしょうし、逆に牛乳パックやトイレレットペーパーが投げ散らかされる環境にいれば、自分も周囲に流されていたかもしれません。外から見れば、前者を「美しい学校」、後者を「荒れている学校」と安易に評価してしまいがちですが、その中にいる当事者は、どちらも自分と同じ一人の人間なのだと気づかされました。

その後の鍵山幸一郎代表の講演では、「昔は殺人事件が一件起きるだけで社会が騒然としたが、今のように日常茶飯事になってしまふと驚きもなくなる」というお話がありました。確かに、現代の日本はそうした異常な事態に慣れきってしまい、異常を異常だと認識できなくなっている一面があります。私自身もその麻痺状態にあると思うと恐ろしくなりました。だからこそ、どのような環境にあっても日常の違和感や異変にいち早く気づき、良くない環境に染まらない努力が大切です。そして、良くないことを放置せず、自ら体を動かして根本から解決していくことが重要なのだと感じました。そして、その微差や小さな異変に気づく感性を養うものこそが、「鍵山掃除」なのだと腑に落ちました。

2日目の牟礼中学校でのトイレ掃除への参加は、私自身これで5、6回目になるかと思えます。訪れるたびにトイレが美しくなり、掃

除の会の道具が仲間に加わり、今回は鍵山秀三郎相談役の言葉が掲げられていました。生徒が中心となって活動を継続できていることが素晴らしく、さらに今回は学校を卒業された高校生まで参加されていることに深い感銘を受けました。

私は3階の女子トイレを担当しましたが、偶然にも昨年と同じ場所でした。1年前には時間が足りず手の届かなかった水場まで徹底して取り組むことができ、継続して積み重ねる喜びを改めて味わいました。また、元代表世話人の松岡様は80代半ばを過ぎておられますが、私たちが見落としていた壁の汚れをさつときれいにされたり、気づけない細かな部分にまで自ら動かれたりする姿を拝見しました。そのお姿に、自身の至らなさを恥ずかしく思うと同時に、掃除が骨身に沁み込み、体が自然と動いておられるのだと強い感銘を受けました。6班は吉岡リーダーの素晴らしい進行と的確な説明、そして徹底した時間管理のおかげで、非常に充実した2時間のトイレ掃除となりました。ご一緒した皆様、ありがとうございました。

最後に2日間を振り返っている中で、幸一郎代表が牟礼中学校の立志式への参加を機に、ご自身の志を立てられたエピソードを思い出しました。その志とは「①使命にもとづく、②悔いを残さない、③感謝する」というものです。翻って、自分はどうだろうか。本来であればもっと時間をかけて熟考すべき問いですが、私は禅語の「随所に主となれば、立処皆真なり」という言葉がふと浮かびました。それは、与えられた役割や環境を喜んで受け入れ、その中で自分なりの真・善・美を見出していきたい、という思いが湧いてきたからです。

今年は図らずも、掃除の会の本部である「NPO法人日本を美しくする会」の広報委員長を拝命し、その責任の重さに当初は消極的になってしまいう自分もいました。しかし、今回、牟礼中学校の生徒さんや北島先生の活動発表を聞いて、自らが一歩踏み出す勇気をいただいたように思います。責任に苛まれるのではなく、自ら前向きに、喜んで、挑戦していく。それだけでかなり気持ちが楽になります。明確な「立志」とまではいかなくとも、この決意を胸に、これからの活動に邁進してまいります。

第4回鍵山教師塾体験記

★ ★ 滋賀県・教員・清田 祥一郎 ★ ★

まずは、約10年ぶりに鍵山教師塾に参加させていただき、実践報告やトイレ掃除に皆様と過ごすことができとても感謝しております。鍵山幸一郎様始め、実行委員の先生方、山口掃除に学ぶ会の皆様、朴の杜のスタッフの皆様、本当に有難うございました。

コロナ禍の頃から、ますます学校では清掃活動の大切さを軽視する状況で、掃除の意義を語る教師の姿も少なくなる状況の中、鍵山秀三郎相談役の遺志を一担任として微力でも引継ぎ出来ることを実践していきたいと感じたこと、そして一部の生徒が掃除に興味をもってくれたことで昨年末から西橋先生の新大阪街頭清掃に参加させていただいたこともあり、教師塾の募集情報をWebサイトで知り申

し込みをいたしました。

1日目。幸一郎様に送迎バスで朴の森に到着する途中、日本の危機的な現状のお話、朴の森へ入る道の白く綺麗なカードレールのおもてなしなどのお話がありました。様々な面で参加者を気持ちよく受け入れるご準備をしてくださり大変恐縮でした。慈愛の里を最初にご案内くださいました。認可外保育を受け入れても、木造の建物にこだわり、様々木材を使い、円覚寺の施設の木材も再活用され、木の香りがする空間にずっといたいと思う空気感でした。こだわりの食器や給食、遊具など隅々まで五感を自然と感じる空間で感性を育む教育がなされていることに感動しました。

掃除道具置き場は、数多くの知恵や工夫が詰め込まれ綺麗で美しく感動しました。掃除をすればするほど、この美しさや管理、運営がしっかりとされていることが分かり、鍵山相談役が、作った当初の写真を見て、「これから皆さんでその場所を創っていただくさい」というお言葉が、引き継がれているのだと感じました。自分のクラスは掃除ロッカーや教室もそのような空間になるような工夫をして、愛着を持つってもらうクラスづくりをしたいと感じました。

一隅の里での昼食のお弁当や懇親会での夕食は、どれも身体に優しく手間と愛情がたっぷり込められた美味しさで、片付けまでひとつのストーリーが知りたいと感じられる場所でした。食材や調理についてのお話とともに、どんな在り方でどんな気遣い心配りされているかを伺いたいです。昼食で慎太郎さんが洗い場でお客様の食事の様子を教えていただき、教育者が日本をさらにより善く創っていく

可能性が多くあるということも実感しました。

北島先生の実践発表をお聴きし、北島先生の芯の強さ、諦めない強さ、愛情たっぷりのお話しさが生徒さんの変化に繋がり、60名の参加者に繋がったと思います。やんちゃな生徒へのアプローチは教師が学び実践することばかりだと思います。自分の勤務校の状況と照らし合わせると「静かな拒否」は生徒だけでなく、教員にもあると改めて感じました。そこを疎かにすることにより、それは必ず学校づくりに影響するということを伝えたいと感じました。

牟礼中学校の生徒会の実践は素晴らしく、中学生の凛とした美しい姿、トイレ掃除を文化にしているという心意気に感動しました。そして指導されてきた山口先生や田中先生の実践が自然と生徒会メンバーに浸透しているのかと想像しました。参加者の交流のあとの各グループの発表で、中学生が多く気づきを発表してくれましたが、恐らく主体性も育まれているのだと感じました。

2日目は、トイレ掃除実践でした。1班に入らせていただき、幸一郎様からリーダーとして大切なことを多く教えていただきました。まず、指示を具体的にすること、水をたっぷりとり、バケツのこの線まで」という指示にする。そして、全体の状況をみて限られた時間の中で何を優先して、どこまでやり切らせるのかをリーダーが判断して指示を出していくことを教えていただきました。日頃からの生徒への指示も具体化して明確にすることで必ず指示に従って行動できるようにすることを教わりました。

実際のトイレ掃除も約10年ぶりに取り組ませていただき、色々と

思い出すことができました。トイレットペーパーはじめ、掃除に必要のないものをすべて外に出し、蛍光灯も綺麗にして明るくし、掃除しやすい環境を作ることには忘れていました。そして、限られたバケツの水を継ぎ足すのではなく、どうやって綺麗にしていくのか、カネヨンを1円玉のサイズで小便器に置き、それを節約しながら汚れを落としていくのか節約できるのか工夫を重ねました。今回タオルやバケツの数も準備が足りず少なかったのですが、その分工夫してできることを幸一郎様は指示してくださいました。これは目の前の生徒が手を余すことなく役割を果たせる環境を作ることと同じで、日々の清掃や全校清掃での指導に繋がることかと感じました。そして、手を動かしながら目の前の便器にしっかりと手を添えて、汚れを落とす方法を考えながら手を動かししました。タオルは3番のものを使いましたが、それでいきなり汚れのあるところを拭き取るのではなく、スポンジをまず使うことも学びました。理由はスポンジならすぐ汚れをバケツの水で落とすことができるからですが、スポンジやタオルを始め、世間で消耗品といわれるものも、出来るだけ長く使用できるように工夫することは、地球にやさしく感謝することに繋がります。時間がかかってもちだわって丁寧にすることに没頭することが謙虚さを身につける事にも繋がるということを生徒へ掃除を通じて伝えていきたいと思いました。

この鍵山教師塾を運営してくださった先生方やスタッフの方も、班分けや座席そして懇親会の段取りなど全てにわたって効率よく、参加者が迷わないように隅々まで配慮してくださいました。そして参

加者の声や感じたことをシェアする工夫も多く準備してください、研修に集中し深い学びができる環境を整えてくださいました。飲み物1つとっても名前を付けて貼ってください、受付から最後帰宅後のメッセージまで完璧な運営を追求してください感謝しております。運営された先生方は、普段の学校生活でも、「時間を守り、場を清めて、礼を作る」実践を日々当たり前に実践されているのだらうと想像しました。自分の勤務校でも少しでもこの2日間のことを広めていけるよう、他人本位に生きることを日々の実践に活かしてまいります。

今回も会場として使わせていただいた、牟礼中学校は、靴箱がしっかりと整って、人の話を聴く際に向く姿勢を変えることが当たり前の学校でした。それを入学段階で生徒会が後輩に説明するとのことでした。教師がそのサポートを裏で指導されてきた歴史があるからこそ、生徒会が主体的に学校を創っていくようになっておられるのではと思いました。主体的に生徒がより善く学校を創っていくモデルとして学ばせていただき、本当に感謝しております。また来年以降も定期的に学ばせていただく機会を作りたいと思います。有難うございました。

★★ 京都府・京都新洗組・興梠 徳乃介 ★★

あつという間の2日間でした。教師を目指している自分にとって、今回の教師塾は「教師になる」という気持ちをさらに強くしてくれ

るものだったと思います。1日目の夜に、今回の朴の森教師塾に誘ってくださった先輩から「いきいきしているね」と言われたことからも、自分にとってこの2日間がどれだけ実り多い時間であったかが分かります。1日目の牟礼中学校の生徒さんの発表、北島先生の実践からは、勇気をいただきました。私は掃除の意義の一つに、実際に手を動かしてみ、そこから学びを得ることがあると考えています。牟礼中学校の生徒さんからは、立志式で実際に掃除をしてみ、それに感化された生徒さんが、今では生徒会の活動でトイレ掃除を全校生徒に教えているという実践報告をしていただきました。最初はトイレ掃除に抵抗があった生徒さんも、実際に掃除をしてみると清々しい気持ちになったと言っていました。私は教育において体験は非常に大切であると考えています。掃除は細かなところに気づく、道具を大切に使う、相手への配慮など人として大切なことを学ぶことができるということを牟礼中学校の生徒さんから学ぶことができました。そして、山口先生、田中先生のように、教師がすべきことはその体験のきっかけを与え、サポートすることであると学びました。北島先生の実践から行動することの大切さを学びました。私は、もし初任校で北島先生が目当たりにした光景(爆竹や汚れたトイレなど)と対峙した場合、どうするだろうと考えながら北島先生の実践報告を聞いていました。北島先生は、真摯に状況と向き合い、東京の知り合いの先生にも連絡を取り、トイレ掃除をきっかけとして学校をよくしようとして行動されました。初めてのトイレ掃除の実践をする時、「もし人が集まらなくても、私1人で

します」と当時の心境をおっしゃっていたことが印象的です。逆境ともいえる状況の中、たとえ1人でも行動を起こす。こうした根気強さと勇気が教育者には求められるのだと北島先生の実践から学びました。鍵山幸一郎さんの講演では、自分本位から他人本位、悪いことを減らすより良いことを増やそうという言葉が特に印象に残っています。ビルに郵便を持ってきた方に飴や冬であればカイロを渡したり、業者さんが配達しやすいように綺麗にタイヤを並べたり、良いことを増やそうという言葉が説得力を持ち、心に響くのはそうした実践を日々行っているからだと思いました。言葉に説得力を持たせるためには行動が必要。私も生徒に信頼される教師になるために、街で見かけたゴミを拾うなどの小さな行動を当たり前に起こせる人になっていきたいです。1日目の掃除道具の準備で、私が道具の数を揃えることに頭がいっぱいになっていたところ、藤野先生から「いくつ揃えるかではなく、掃除しようとしているところで行く必要があるかを考えよう。道具は、あればあるだけ使ってしまう。」と言っていたいただきました。これは2日目の掃除実習で、三度洗いによる手の洗いを教えていただいている時に鍵山幸一郎さんがおっしゃっていた「この水の量で100人洗おうと思えば、洗える。50人で洗おうと思えば50人分ではなくなる。」という言葉とも通じると思いました。今与えられた条件の中で試行錯誤する、トイレ掃除からはこうしたことも学べるのだと実感しました。2日目の掃除実習でも、鍵山幸一郎さんが掃除の仕方を教えた後に必ずと言って良いほど実生活の考え方と結びつけていたことも印象的です。例えば、

バケツの水の量を伝える時に「ちょっと注いできて」と「2本目の線まで注いできて」では後者の方が分かりやすい。円滑に物事を進めるためには具体的な指示が大切で、具体的な指示は親切であるとおっしゃっていました。掃除「を」学ぶではなく、掃除「に」学ぶとはこういうことかと腑に落ちました。鍵山幸一郎さんが、分かった「つもり」病にならないようにと、1日目の講演、2日目の掃除実習で何度もおっしゃっていました。そうならないように、京都に戻

ったの掃除活動や普段の生活で今回学んだことを実践していきたいと思います。例えば、京都新新洗組の倉庫の配置をもう一度考えて陳列してみたり、なぜトイレ掃除をする時にスポンジを使うのかをこれから新洗組に入ってくる後輩に伝えたりしていききたいです。

また、様々な行動の背景にある意味を伝えていける教育者を目指していきたいです。そのためにも日頃から「なぜこの行動をするのか」を言語化する習慣をつけていききたいです。今回、たくさんの方のお話を聞き、たくさんの方に自分の話をさせていただきました。お掃除を通してたくさんの方の志高い方と出会えて幸せだと思います。こうした縁を大切に、謙虚に生きていききたいです。来年も開催される場合は是非参加したいと考えています。いつか、自分自身も教師として実践報告をする日を1つの目標にして、勉学に励みたいと思います。今回の教師塾を開催するにあたり、準備・運営をしてくださった方々、本当にありがとうございました。

感動あふれる二日間を、本当にありがとうございました。

前日まで悪天候が続き、交通機関への影響も心配される中、私たちが安心して参加できるよう準備を重ね、温かく迎えてくださった幸一郎さんをはじめ、藤野先生、朴の森のスタッフの皆様、実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

一日目の講話では、「他人本位」の大切さや、「つもり病」にならず、知っている・分かっているだけで終わらせず、実践することの大切さを学びました。何事にも感謝の心を忘れず、陰徳を積むことを目指し、日々の生活や仕事の中で実践を積み重ねてまいります。

中学生の皆さんの発表では、掃除を続ける中で心が動き、自分自身や仲間たちが変わっていく様子が、まっすぐな言葉で伝わってきました。試験が終わって最初の土日であり、悪天候の影響で電車も止まるような状況の中でも参加してくれたその姿からは、掃除への思いや学びを大切にしている気持ち、そして山口先生との深い信頼関係が伝わってきて、大変感動しました。子どもたちの素直な眼差しや姿勢から、私自身も多くのことを学ばせていただきました。

続いて、北島先生からの実践発表では、トイレトッパーが投げ散らかされた校内の写真に衝撃を受けました。しかし、そのような状況でも先生は、「できることから、少しずつ、一つひとつ丁寧に」と歩みを止めることなく、生徒を信じ続けて取り組まれました。その姿勢に深く感動するとともに、相手を信じ、諦めずに関わり続け

ることの大切さを改めて学びました。

岡本さんから伺った「倉庫を育てる」というお話も大変印象的でした。一度整えたら終わりではなく、「もっと良い方法はないか」「さらに工夫できることはないか」と考え続け、改善を積み重ねていくことが大切であると学びました。現状に満足せず、最善を尽くし続ける姿勢は、教育や仕事、日々の生活にも通じるものだと感じました。また、スタッフの皆様の細やかな配慮と温かなおもてなしの心に深く感動しました。会場準備や案内、温かな声かけ、ひとつひとつの立ち居振る舞いに至るまで、参加者には見えないところまで心を配り、安心して学べる場を支えてくださっていました。そのお姿から「他人本位」とはこのようなことなのだと実感いたしました。

二日目の掃除実践では、息子と一緒に参加させていただきました。息子にとっては二度目の参加でしたが、全国から集まった多くの参加者の皆さんを前に、最初は少し気後れしている様子でした。

しかし、チームの皆さんが優しく声をかけてくださり、丁寧に教えてくださるだけでなく、「これをお願いしてもいい？」と役割も与えてくださいました。その温かい関わりのおかげで、少しずつ表情が和らぎ、本来の息子らしさを取り戻していききました。そして、受け身だった息子が、自分から「次は何をしますか？」「これはどうしたらいいですか？」と積極的に声をかける姿が見られたことを、大変うれしく思いました。

その姿を見て、人は認められ、信頼され、役割を与えられることで、自ら考え、行動するようになるのだと実感しました。この学びを、息

子との関わりはもちろん、保育園で子どもたちと接する中でも生かし、一人ひとりを信じ、成長を支えられる関わりを実践していきたいと思います。

また、参加者の皆さんとの出会いも大きな財産となりました。それぞれの思いや実践に触れ、多くの刺激をいただき、自分自身もさらに成長したいという思いが強くなりました。

今回の研修で学んだことを、「良い話を聞いた」で終わらせるのではなく、日々の生活や仕事の中で実践し続けていきたいと思っています。小さなことをひとつずつ大切に、少しでも周りの方のお役に立てる人を目指していきたいと思っています。

改めまして、ご指導くださった幸一郎さん、藤野先生、朴の森のスタッフの皆様、実行委員の皆様、牟礼中の皆様、そして共に学び温かく支えてくださった参加者の皆様に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

★ ★ 山口県・小学生・沖野 咲都 ★ ★

2回目の参加でした。前回よりも、もっと楽しかったです！

目標を決めて、そこに狙って掃除するのがよかったなと感じました。ほかのことでも通じることだと思ったので、目標をもっているなことにチャレンジしていきたいと思っています。

いろいろ教えてもらえて嬉しかったです。ありがとうございました。来年もまた参加したいです。

★★ 大阪府・大阪掃除に学ぶ会・高田 駿 ★★

今回で4度目になる鍵山教師塾 in 朴の森

今年は開催の週の水曜日の夜あたりから土曜日に掛けて日本列島に2つの台風が来るタイミングで、大雨と強風で天気が荒れていたの
で、飛行機、新幹線、レンタカー・・・どの移動手段をとっても朴
の森まで行けるのか？そもそも開催されるのか？という不安のな
か、開催日は晴天となった。一部のメンバーの飛行機がアクシデン
トで飛ばなかったということもあったが、無事に顔なじみのいつも
のメンバー、初参加の初めてお会いする人と一日目に全員揃い、今
年も始まった鍵山教師塾 in 朴の森。

1日目の思い出深いことは、牟礼中学校の活動発表と北島先生の
活動経過報告。

牟礼中学校の取り組みは、先生やPTA、保護者ではなく、学生が
中心に日々清掃活動に取り組んでおられるという活動の報告で、な
んだか生き生きとした空気を感じた。学生たちが目を輝かせなが
ら発表する姿はなんだか遅しく見えた。それは、過去3回の鍵山教
師塾 in 朴の森の活動に、一つの成果という花が咲いた・・・とし
みじみ感じるものがあった。また、2日目のトイレ実習でも成果を
感じられた。まず、掃除道具が道具置き場にきちんと整理・整頓さ
れ、道具のリスト表が壁に貼ってあった。トイレの中の臭いや汚れ
も過去の回で訪問させていただいた時よりも格段に状態が良くなっ
ていた。何よりうれしいのが参加してくれる学生も増えたこと。牟

礼中学校の環境は確実によい方向を向いている。間違いない。次回、
来るときはどれほど環境がよくなっているのだろうか？もしかして
サンドメッシュの出番がないほど綺麗に保たれているのか？参加人
数はどうなるか？参加者が多すぎて今度は体育館に集合になるか？
色々と勝手なことを想像してしまいますが、きっとそうなってくれ
ると思う。

昨年から参加されている北島先生の学校は、牟礼中学校と違い、
荒れ果てた学校で環境が真逆だ。内心、ここまで荒れた学校が未だ
にあるんだな・・・先生方や大半の学生は大変を通り越して疲弊して
いるだろう・・・と活動経過報告を聞きながら思いました。でも、先
生は果敢に掃除の活動に取り組まれている。その教師としての情熱
と使命感が伝わる活動経過報告に胸がいっぱいになった。私の中学
時代を思い出すと、荒れた同級生がぼつぼついた。そういう同級生
は全員ではないが、貧困、または親子仲が悪い、といったバックグラ
ウンドがあったと思う。つまり、居場所や自分に自信等がなく、どう
しようもない感情を何も言い返さない物や人に八つ当たりしている
ような感じか。北島先生の学校の生徒にこういうバックグラウンド
を抱えている人が多いかはわからないが、一緒に活動に取り組もう
と声をかけてくれる北島先生という存在が、生徒の心を動かし、少
しずつ生徒の気持ちに変化をもたらしているのだと思う。トイレ掃
除は参加者の募集、道具の用意、準備、片付け、熱中症対策、掃除中
は臭いと暑さと大変なことがいっぱいある。その分、人の気持ちを
いい方向に向かわせる魔力がある。ぜひ計画中である次回のトイレ

掃除が開催できてほしい。やればやるほど生徒も、学校も、すべての環境がいい方向に向いていくと思います。因みにですが、街頭清掃はゴミ袋一つあれば手拾いでもできるので、そちらもご検討いただければと思います。今から、来年の発表が楽しみです。

2日目の思い出深いことは、トイレ掃除の実習が去年と同じ3階の男子トイレで、ほぼ同じメンバーで楽しくできた、というのが一番の感想です。先ほども書きましたが、過去の回よりトイレが綺麗になっていたため、汚れているところを各々探してもらい、目標を決めて取り組んでもらった。特によかったのが、40分ほど便器掃除の時間を設けたのですが、一度休憩と取り組み状況の発表の時間を設けたときの発表内容です。「便器の外を一生懸命磨いている」といった人がいれば、「見えない内側を念入りに磨く」など、一人一人がどう取り組んでいるか共有したことで、昨年よりも気づきの多いトイレ実習と個性の違いが出た掃除になったと思う。それも参加した全員が素直で、真面目な人であったからこそのことだ。いい人たちという活動、いい時間を共に今年も過ごせて大変贅沢な日だったと感じる。

今年の文書量は昨年の2倍ほどになり・・・書くのに時間がかかる・・・また、読んでいただける人には大変時間をかける・・・と書きながら思っています、それほど書くことが多く、時間がかかるというのは昨年より内容が濃く、印象に残り、「感化」することがあったという証拠だと思っています。

最後になりますが、教師塾 in 朴の森の実行委員会の方々、今年

で4回目となりましたが、開催いただき貴重な時間、機会を創造いただきありがとうございます。

教師塾 in 朴の森に集まった皆さま。様々な「感化」するきっかけをいただき、ありがとうございます。

★★ 大阪府・教員・西橋 聖次 ★★

今年度も実行委員の一員として準備から取り組ませていただいていたが、自分の環境の変化を言い訳に準備を後回しにしてしまっていた。後回しにすればするほどに追いかけられる気持ちとなり、気持ちが鍵山教師塾の準備に向きにくくなってしまっていた。その状況を見ていた実行委員の仲間が私の仕事を代わりにしてくれたり、サポートしてくれたたりしたおかげで当日を迎えられることができた。そのような状況であり、新山口に到着、鍵山記念館で鍵山教師塾のスタート、懇親会と地に足がついていない感覚であった。そのような中でも、皆様とお話をさせていただき、お話を伺うことでやっとな焦点があつてきたように思う。懇親会が終わり、うどん屋さんのどんどんに向かう時には岡本さんと話させていただき、自分の課題や解決方法についてもイメージできるようになった。今回の学びをいくつかに分けて記載したいと思う。

「北島先生の子どもたちに当事者意識を持たせるために掃除をさせたい」

私の与えられた環境ではどうか、先生方に当事者意識を持ってい

ただ、当事者意識とは何か、学校で起こっている事象について、自分がしていない、関わっていないことについても考えられるようになるということだと考える。勤務校は170名の先生方が働かれて、70名ほどの先生方が働かれる職員室に私も居る。自分のクラス、自分の学年がある先生方が、一つのチームとなり、協力するためには当事者意識はとても大切である。先生方が当事者意識を持つことの方策が掃除ということには今回では繋がらなかったが、自分自身が学校の掃除を通じて当事者意識を持つことができるのであれば、それが方策に繋がっていくことと思う。ただ、4月から転勤となり、慣れない立場・環境を言い訳に掃除の時間を取れていなかった。取っていなかった。続けることのコツは時間を区切って行うことと伺い、今までは朝に掃除をするルーティーンで過ごしていたが、4月からそのルーティーンが崩れ、立ち直せずにいたが、15分と時間を区切り、明日から取り組みこととする。その点で当事者意識を持たせるための北島先生のお話、掃除、経過報告はとても参考になった。

「嫌なことを言ってくれる人の存在」

幸一郎さんのバスの話で、自分の職場に置き換えた時に、どのように声をかけていくか、職場の人材育成についての難しさを想像した。しかし、それも掃除を通じて行うことができるのだろう、そしてその考え方、あるものを活かし、存在を認め、自ら走ってもらおう。そうすれば、人は勝手に成長していくのではないかと思う。やはり当事者意識に繋がることである。

「並走する」

掃除では、高田さんがリーダーの元でサブリーダーをさせていた。牟礼中の道中で近くで話をできたので打ち合わせができた。その中で、目的をどうするか、どのように進めるかなど高田さんがどのようにしたいか、考えているかを具体的にしていた。現場を見て、やはり小便器の尿濾しの裏側に汚れがあり、そこを一番に綺麗にすることになったので、そこを一番に焦点を当てられる計画を相談した。ああでもない、こうでもない、限られた時間の中ではあったが、お互いに共有認識が持て、スタートした。高田さんが具体的に指示を出され、正確に時間を伝えられたおかげで、参加者のみなさん、集中して便器に向き合うことができていたように思う。そして高田さんの想像通りに尿濾しの裏側を綺麗にすることであったという間に匂いがなくなった。今回のトイレでは匂いが無くなったことで空気がパッと明るくなったように思う。今回は高田さんとコンビを組ませていただいたことで、私にはできないことを高田さんが補ってくれ、高田さんのことを私が補うことができ、とても有意義でスムーズに進んでいったと思う。このような綺麗な流れが自分の中で積み重なっていくことで、成長の道を歩んでいけるのではないかと思った。高田さんへの言い方が強くなったこともあったこと御容赦いただきたい。

今回は準備から自分の弱さと向き合わせていただき、それをもって鍵山教師塾で学びから次に繋げるきっかけをいただけ、大変有意義であった。それも鍵山幸一郎さんの全面的なバックアップのもと、朴の森スタッフの皆様など多くの見えないところでの支援サポート

があったからである。感謝すると共に、その恩返しは自分の行動で示していきたいと思う。

本当にありがとうございました。

★★ 大阪府・大阪掃除に学ぶ会・吉岡 佑峰 ★★

令和8年度若手育成教師塾。今回もスタッフの方々および、鍵山幸一郎館長、藤野副代表の多大なる尽力により、素晴らしい場であったとしみじみ思います。今回から何よりも鍵山慎太郎様が朴の森に大きく関わるようになったことで、空気が変わったとスタッフの松原さんからお話を聞いたのが印象的でした。1日目の牟礼中学生さんの成果発表、北島先生の発表も印象的でしたが、私が心動かされたのは、発表の最中に起こるほんの小さなトラブルに対してスタッフの方が、咳き込んでいる方にお水とのど飴を差し上げたり、ホワイトボードをきれいにしたり、その間がまた絶妙で「心配りの鍛錬はこのように日常に現れるのか」と非常に驚嘆いたしました。私は普段どれだけ自分が主体性なく日々を生きているのだと差が歴然としていることを痛感し、感想文を書いているこの教師塾が終わったからの数日間、ひとまず我が家の整理をほんの小さなところから行っています。（とりあえずリビングの10時の方向から）

自分は教員ではないけれどもこの会に幾度も参加をさせていただいて、その度にできる実践を形だけは持ち帰っています。それだけでは何も意味がなく、取り入れたことを自分にも、他人にも連鎖さ

せていけるようステップアップの段階に來たと感じました。

今回、教師塾の様相としても『日本を美しくする会主催の教師塾』となっていましたように、第一回目は若手が鍵山秀三郎先生の生き方に学ぶ会から美しくする会と融和しているのかなと私はとられました。もちろん私の浅慮の範囲なのでそんな簡単な話ではない、やもしれませんが『あるものを活かす』鍵山哲学からしても順当な形式であり。両方ともに関わりのある人間としても嬉しい限りです。

改めまして、私も現代社会にはほぼ希望を持つてはいないので、未来に希望を託してバトンをつなげるように努めます。これが唯一の宇宙の根本原理に順行する生物の本懐だと思い、原理に正しく日々を過ごします。

★★ 京都府・京都掃除に学ぶ会・蔡湘蓮 ★★

このたびは、朴の森教師塾に参加させていただき、誠にありがとうございました。二日間を通して、多くの学びと気づきを得ることができました。

一日目は、さまざまな講演を拝聴し、それぞれの実践や経験から多くのことを学びました。その中でも特に印象に残ったのは、牟礼中学校の実践発表です。先生方が生徒とともに掃除に取り組み、大変感銘を受けました。また、生徒の皆さんが背筋を伸ばして座り、話し手の目をしっかり見つめながら真剣に話を聞く姿にも深く心を動

かされました。その姿から、掃除を通して礼儀や思いやり、そして人としての在り方が育まれていることを実感しました。

また、掃除に消極的な生徒が多い学校であっても、先生が決して諦めることなく、信念を持って掃除を続けられたというお話も心に残りました。もし自分が同じ立場だったら、そのように最後までやり抜くことができるだろうか、自分自身を見つめ直す機会にもなりました。

二日目には、牟礼中学校の生徒の皆さんと一緒にトイレ掃除をさせていただきました。生徒の皆さんが黙々と丁寧に掃除へ取り組み姿を目の当たりにし、一日目に学んだことが日々の学校生活の中で実践されていることを実感しました。そして、掃除とは単に汚れを落とすことではなく、人の心を磨き、感謝や謙虚さを育む営みであるという掃除の初心に触れることができました。

今回学んだことを京都での仕事や日常生活の中でも実践し、感謝の気持ちと謙虚な心を大切にしながら歩んでいきたいと思えます。貴重な学びの機会をいただき、本当にありがとうございました。

★★ 石川県・一般・道場 肇 ★★

今回で2回目となる朴の森で開催された「鍵山教師塾」に参加いたしました。

これまで「立志」や「成人」の節目でも自分の生き方を深く意識することなく過ごしてきた私にとって、「人としてどう生きるべきか」

を真剣に考える貴重な機会となりました。

誰かの役に立ち、その思いを少しずつ広げること、地域、日本、そして世界をより良くしていくことこそが、人として果たすべき役割であることを強く認識いたしました。

47歳となった今、ご先祖様、両親、家族、そして仲間への感謝の気持ちを改めて深くするとともに、これまでの自分を見つめ直し、「誰かのために生きる。とりわけ身近な方々のために生きる。」という覚悟を持つことができました。また、「五感を強く意識するために素手を使うこと」「物事に意味づけをすること」「時を意識すること」「場づくりを大切にすること」など、多くの学びをいただきました。

さらに、懇親会后、宿泊先ホテルのエレベーターで偶然ご一緒に同志の方と、約2時間にわたり語り合う機会をいただきました。初対面にもかかわらず、人生について率直に語り合えたことは、今回の大きな収穫の一つとなりました。

また鍵山代表から教えていただきました、道路の縁石や側溝の草刈り・清掃を行い、参加者を迎え入れることこそが、本当のおもてなしであり、気配りであること、耳の痛いことを言ってくれる方を大切に考える方々に、深く感動いたしました。

これからは、日々の仕事や生活の中で、一人でも多くの方に喜んでいただけるよう行動を積み重ねてまいります。そして、口先だけではなく、行動で示せる生き方を追求していきたいと思えます。

この度は、鍵山代表、藤野副代表をはじめ、利顧問、井辻様、朴の森・慈愛の里・一隅の里のスタッフの皆様、実行委員の皆様、牟礼中

学校の関係者の皆様、田中先生、そして志をとにした同志の皆様
に心より感謝申し上げます。

今回いただいた学びを自分の持ち場で実践し、行動を通じて恩返しをしてまいります。

★★ 山口県・学生・大田 莉子 ★★

今回は3回目の教師塾でした。1日目は参加できず、2日目の牟礼中学校でのお掃除実践から参加させていただきました。

掃除した場所は男子トイレでした。最初に汚れの具合を確認しました。その時は遠くにいてもおいが来て息をするのが嫌なくらいでした。おいのものは尿漉しと、尿漉しの周りの細くなっている部分についている黄色い汚れだと西橋先生が話されていました。私は入り口側から数えて3番目の便器を担当しました。便器を掃除する前に便器の周りの壁をスポンジで拭きました。その時に便器横の床のタイルが黒ずんで汚れていることと、便器の外側で左の下の方が黒ずんでいるということに気づきました。次に便器の中の方を見ていくと、尿漉し以外に、水が出てくるところ、外からは見えていないヘリの部分に汚れが多いことが分かりました。この状況を見て、まずはにおいのもとになっている尿漉し、尿漉しの周りの黄色い汚れを落とすことが最優先、ほかの場所はそんなに汚れていないから、残った時間でやろうと見当をつけました。それから、便器の中をスポンジで拭き、その次にナイロンたわしでこすりました。ど

こに汚れがついているか手で確かめながら、こすっていました。その時、ぬるぬるしているかなと思ってみていた汚れが触ったらざらざらしていたり、すぐに落ちる汚れかなと思ってみても落ちなかったり、自分の思い込みとは違う汚れに出会いました。日常生活でも、すぐに終わると思っていたことが終わらなかったということがよくあるなと思いました。トイレ掃除であれば、触ってみたり、ナイロンたわしでこすったりすることで自分の想像していることとは違うということがすぐ気づくことができましたが、掃除以外のやらないといけない課題、考えていること、などこの掃除で言うところの触ってみる、こすってみるといった、問題の根源に近づくという行為ができていないから、直前になって慌てて、こなすだけになっているのではないかと思いました。物の準備をするのでも、直前になってようやく、あれも必要だったと思いつきます。結局、出発時間ぎりぎりに焦ってつめて遅刻します。テスト前日になって勉強をし始めて間に合わないということもよくあります。問題を眺めているだけで一歩踏み込んで動き出していないからだなど気づきました。考えているだけではリアリティがないから、少しでも動きはじめてみるようにします。

いままでは、掃除をしているときは誰とも話さずやっていました。今回は、同じ班の方たちに教えてもらいながら、また、私も教えながら掃除をしました。隣の二人が、おいが変わってきましたねとか、また臭くなったとか、話してくださったことで、臭くて息を無意識に止めていたため変化に気づけていなかったことが分かり

ました。掃除を始めたときと全くおいが違いました。また、私を手で便器を触りながら汚れを確認しているのを見て、そうしたらいいですねと、言ってくださっていました。話をするのでお互いの気づきを共有することができました。

休憩後に、それぞれ何に気を付けながらそうじしていたのかというのを共有しました。奥側の便器を見たときに、尿漉しの周りが、私の掃除していたところに比べて汚れていなくて、この時間で汚れが全部落ちたのかなと思ったのですが、そもそも汚れの度合いが違うのではないかとということに気づきました。奥の便器の二人は尿漉しの周りよりも、周りの黒ずみを意識して掃除していたとおっしゃっていました。私は尿漉しの周りの汚れを落とすことばかり考えていて、他のところを掃除していませんでした。掃除していなかった部分をこすってみると、においがくつと上がってきて、汚れていたのだということが分かりました。最初に立てた自分の見立てを、掃除しながら更新していくことも大事なのだということがわかりました。また、便器の横を磨いているときに、磨きにくいなと思いつつやっていました。そのとき側の自分の位置が、側面を掃除しているのに、正面に立っていました。体勢を変えたり、側面にまわったりする必要がありました。いつも、動くことができていないなと思いました。楽をしよう、動かないでいいようにしよう、そういう選択をしていました。この時、困ったのは自分でしたが、別の誰かが、動かないといけなくなったり、迷惑をかけたりしているかもしれないと思いました。これからは自分からすぐに動き、打算し

ないようにします。

「教化ではなく感化」 鍵山教師塾 in 朴の森に参加して

★ ★ 福岡県・一般・久保山 武 ★ ★

昨年に引き続き2回目となる鍵山教師塾に参加させて頂きました。

最初に、保育が開始されている慈愛の里で案内を頂きました。樹の香りが漂う五感が刺激される木の空間でとても心地よく感じました。驚いたのは、3歳のこどもからでも掃除をしているということ。整然と並べられた掃除道具を使っている姿をイメージして素晴らしい学びをされているなあと感心しました。そして地元の萩焼の陶器を使っている食事時間。普通は割れにくいプラスチックを使う園が多いかと思いますが、この手触り感やものを大切にすること、まさに三つ子の魂百までを実践されている現場でした。“小さなことをおろそかにしない”は、6・7月の慈愛の里で掲げられたためあてです。

耕心の里に入るととても厳粛な気持ちになります。その空間が醸し出す歴史を感じさせる佇まいに圧倒されます。そして、掲げている坂村真民さんの書に惹かれました。“いつも瞳は澄んでいよう濁ってしまったては駄目”というものです。果たして、今の自分の瞳は澄んでいるのだろうか？と自問してみます。多くの人は日々の忙しさに追われて瞳の輝きについて気にしている人は少ないかもしれ

ません。瞳は化粧はできません。やはりいくつになっても瞳が輝く

ような夢中になって取り組むテーマをもち、挑んでいく実践が大切なのではないか？と私自身を振り返る大切な機会となりました。

午後からは、牟礼中学校の皆さんのトイレ掃除の実践の報告がありました。報告した学生、その話を聴いている学生、発表内容はもちろんとても素晴らしいものでしたが、それ以上に、瞳がすばらしく輝いていたこと、姿勢がすばらしいことに心が打たれました。

翌日のトイレ掃除の実習では、秦リーダーと中国から来られた蔡さんから学ばせて頂きました、雑巾の搾り方から、天井の換気扇の掃除、床の磨き方など。鍵山先生のことばでもある、「目は臆病だが、手は勇気がある」を教えて頂きました。あれこれ見て悩む前に、まずは目の前の小さな実践に手をつけよ、という意味かと思えます。

私自身、昨年の教師塾から帰り、毎日のトイレ掃除と散歩中のゴミ拾いを少しずつ始めています。“教化より感化”そして、日々の実践があらためて大切なことなのだと感じています。

今回も素晴らしい機会を頂き、様々なご支援をしてくださった鍵山幸一郎さんをはじめ、藤野貴之先生、朴の森のスタッフの皆様、そしてご一緒させていただいた先生方に、心から感謝申し上げます。掃除の先に広がる“人づくり”という道を、引き続き、皆さんと一緒に歩んでいきたいと思えます。

貴重な気づきの機会を下さり、ありがとうございました。

★★ 東京都・一般・小玉 達也 ★★

この度はこのような学びの多い研修に参加をさせて頂き、ありがとうございます。今回初めて参加をさせて頂きましたが、先生方のお話やトイレ掃除の実習の中でも非常に多くの学びと気づきがあり、自分自身の身も心も磨かれる思いでした。飛行機の欠航の影響もあり、一日目の前半の研修を受けることが出来ず、後半から皆様に合流をさせて頂く形になってしまったのですが、スケジュールを変更して私達のために空港までお迎えにも来てくださり、また、施設へ到着した際にも朴の森の皆様だけでなく、参加者の皆様からとても温かい言葉を掛けていただけたことで、とても温かな気持ちで研修に臨ませていただくことが出来ました。この場を借りて、改めて皆様に御礼申し上げます。一日目に聞かせて頂いた鍵山先生のお話の中で一番心に残っているお話が、自分本位と相手本位のお話でした。満員のバスの中でリュックを背負っていた学生に対して、胸倉を掴んで注意をしたというエピソードは衝撃的でしたが、鍵山先生が相手本位ということを本気で考えていらつしやるということが感じられ、とても心を打たれました。いざ自分を振り返ってみると、まだまだ自分のことばかり考えてしまっていることがとても多くあり、自分自身の行動や在り方、考え方について改めて見つめなおすきっかけになりました。相手本位で考えて行動するということがいつも出来るように、自分の心をもっと磨き上げて参ります。相手のためという考え方は、掃除道具の置き方や使い方、掃除のや

り方、後片付けのやり方の中でも随所で常に考えられていました。道具を大切に使う、永く使うということは道具への思いやりでもあり、便器を傷つけないために柔らかいスポンジから使って掃除をしていくということも聞き、ここまで思いやりの心を持っているというにとっても驚き、「トイレ掃除」という一つの行動に対してでも、相手のことを考え思いやりながら行われているということにとっても感動いたしました。社内で普段行っているトイレ掃除などの掃除はもちろんですが、自分の家や自分を取り巻く環境を掃除する際にも、自分のためではなく相手のために、思いやりの心をもちながら行うということを常に考えながら掃除をしていきます。もちろん掃除以外の行動でも自分よりも相手のことを考えられるように考動していきます。二日目のトイレ掃除をしている時には、掃除をしているうちに初めは気付かなかった汚れに次々と気が付くようになり、トイレだけではなく自分の感覚も磨かれているということを実感しました。掃除が終わった後はとても清々しい気持ちになり、掃除という行動がその場だけでなく掃除をしている側の身も心もきれいに磨いてくれているのだということに気づかされました。実習の中で身をもってこの様な気づきを得られたことにとっても感激いたしました。普段町を歩いている時にも何かしらのゴミが落ちています。拾いながら歩くというのは、周りからは稀有な人と見られると思いますが、自分が住み暮らしている場所、町、日本のために行動するということと考えながら、目の前に落ちているゴミをいつも拾える人間になれるようにしていきます。いつかこの、目の前のゴミを拾うという

行動が稀有な事ではなく、当たり前のカッコいい事として認識されて、誰もが行動できるような社会になるように、まずは自分から一歩を踏み出して行動を始めていきます。二日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

★★ 東京都・一般・西川 諒祐 ★★

先日の「鍵山教師塾 in 朴の森」へ参加させていただき誠にありがとうございました。参加の機会を与えてくださった鍵山代表、企画やご準備いただいた朴の森の皆様、お受け入れいただいた立牟礼中学校の皆様へ重ねて御礼申し上げます。この度の鍵山塾は私にとってこれからの生き方の指針となる大きな気づきを得る機会となりました。

実習において、人が敬遠しがちなトイレ掃除に自ら取り組む体験や、周囲の皆様がひたむきに実践する姿に感化される中で、私はこれまで無意識に目を背けていた「誰かが担ってくれている役割」と正面から向き合うことができました。物質的に恵まれた環境で、多くのことを当然のように受け止めてしまっていた自分に気づかされたのです。

他者の見えない苦勞や立場を推し量る「想像力」の大切さを知り、思いやりのある人間とは、この想像力に長けた人なのだと深く学びました。これからは自分本位な視点から抜け出し、身の回りの物事の背景にあるアイデアや思いやりの精神に目を向けてまいります。

言葉だけで終わらせず、具体的な行動をもって他者への配慮を示せる人間になれるよう、日々の生活の中で想像力を磨き続けていく所存です。人生における貴重な学びの機会と、素晴らしいご縁をいただいたことに心より感謝いたします。ぜひまたの機会に参加させていただきたく存じます。

★★ 千葉県・一般・一ノ宮 勝気 ★★

この度は2日間にわたり、大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。

滞在中、鍵山様がお父様より受け継がれた「人としてのあり方」や、人と真摯に向き合われる姿勢に直接触れさせていただき、ただただ感銘を受けるばかりでした。物事の本質を見つめ、誠実を尽くすことの大切さが、今も深く心に残っております。

また、私にとって縁のある山口の地で、掃除を通じて地域に貢献できる機会をいただけたことは、この上ない喜びであり、大変有難いご縁を感じております。

今回学ばせていただいた大切な教えを、これからの仕事や日々の生活の中でしっかりと実践し、人間として少しでも成長した姿をお見せできるよう、精進してまいります。

2日間の温かいご指導と貴重な体験に、重ねて心より御礼申し上げます。

★★ 埼玉県・一般・神林 与喜 ★★
この度は、記念館訪問の貴重な機会と、実践の場をいただき誠にありがとうございました。

初日の講話におきましては、機材トラブルによる到着の遅れから、冒頭より拝聴できなかったことが大変悔やまれます。しかしながら、鍵山さまの「相手を思いやる」というお話は、深く心に残りました。

私自身、日頃から公共交通機関におけるリュックサックの持ち方などのマナーについて、課題を感じることが多々ございます。今回の講話を拝聴し、いかなる場においても常に周囲への配慮を忘れない行動が、何よりも大切であると改めて痛感いたしました。

また、2日目の実習におきましては、私自身の内面に大きな心境の変化がございました。開始直後は正直なところ、便器を前にして抵抗感や嫌な気持ちを抱いておりました。しかし、作業に没頭するうちに、気づけば顔と便器の距離が非常に近くなるほど夢中で磨き上げておりました。

この実習を通じ、単に「場所を綺麗にする」ということ以上に、日頃から「次に使う人のことを考え、綺麗に維持する」という、目に見えない配慮の重要性を身をもって学ぶことができました。

今回いただいた学びや気づきを、自分だけのものとどめることなく、周囲のメンバーにも共有・伝播してまいります。そして、日々の行動から見直し、より一層人間性を高められるよう、誠心誠意励んでまいります。

貴重な学びの機会をいただき、重ねて御礼申し上げます。

★★ 東京都・東京掃除に学ぶ会・五十嵐将樹 ★★

山崎さん、幸一郎さん、実行委員会・朴の森の皆様、感動の二日間をありがとうございました。

5月に続いていた研修でしたが、人数や参加者が変わるだけで、こんなにも気づきが変わるのかと、大変感激しております。まず、自分が如何に凡事徹底できていないかを自覚させていただきました。名札の置き方、ビニール袋やスリッパの事前準備、研修後の感想シェアまでの期間など、数えだしたら終わりが見えません。細部まで丁寧に対応いただいた朴の森のスタッフの方々には、頭が上がりません。ありがとうございました。

また、感動は本氣から生まれることを再確認できました。本氣とは、言葉と行動が一致していること。いや、言葉よりも行動で示すこともかもしれません。言葉ばかりが優先していたと反省したと同時に、鍵山秀三郎さんの名前を出したことを猛省しました。これでは、掃除道や凡事徹底が馬鹿にされてしまう。自宅でも徹底して掃除をするようにしてから、日本を美しくする会を名乗ります。

ここまで聞かれると、自己嫌悪に陥っていると勘違いされてしまうかもしれませんが、心は晴天よりも澄み渡っています。今回の研修を経て、やるべき事が明確になりました。まずは、感動するレベルまで掃除を極めてみます。最初の一步は、常にゴミ袋を持ち歩くことですかね。また、定期的に研修に参加して、自分に喝を入れていきます。今後とも、よろしく願っています。

★★ 東京都・一般・立川学 ★★

初めにこのような素晴らしい会に参加させていただき誠にありがとうございます。並びに、企画、運営をしていただきました方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。私は、今回初参加でした。たくさん学びがありました。幸一郎さんのお話を聞いていて、何かこう時代がタイムスリップしたような感覚に陥りました。私は、昭和を数年しか過ごしておりませんので良くも悪くも昭和という時代のことをあまりわかりませんが、お話を聞いてみると本当に良き時代であり、困っている人が居れば助け合う、手を貸し合う、それが当たり前の世の中であつたとお話で現代と何が違うのか深く考えさせられました。元来の日本人は謙虚であり、素晴らしい美徳心を持つており、それを誇りに感じていたに違いないが現在はどうでしょう、謙虚さがなくなり、良き美徳心が失われつつあるのではないか、それは自分だけ良ければそれで良いという考え方がいつしか当たり前になってしまい、放置し続けた結果が昨今の心痛ましい事件などにも繋がっていると感じました。でも、今からでも遅くない、軌道修正が必ずできる、そう願ひ、行動することこそが教化ではなく感化ではないかと私なりに感じました。

二日目には、トレイ掃除の実践がございました。今回、頭の中をリセットしてスポンジのような心で吸収することを念頭にお話を聞き実践させていただきました。人も道具と同じように扱ってください、この言葉が頭から離れません。だから、それぞれの掃除用具があり、

その使い方全てに順番、意味があるということに気づかされ、また普段使っているホウキの使い方や塵取りの使い方など実は如何にして自己流で行ってきかたかが明らかになり非常に恥ずかしい気持ちでした。なぜなら、私が今まで行ってきた掃除というのはただそこを何となく掃除をしているだけにすぎず、上辺だけで、掃除という行動の素晴らしさを理解せず行っていたにすぎませんでした。今後、この経験を活かすも殺すも自分次第、覚悟を決め、やるかやらないか、やる選択をし継続することが心の豊かさを生み本当の幸せを感じられるのではと深く考えさせられました。最後になりましたが、牟礼中学校の生徒の方々が生き生きと掃除をしている姿に深い感動をいただきました。そして、関わった全ての方々に感謝申し上げます。二日間大変にありがとうございました。

★★ 岡山県・教員・富岡 美江 ★★

この度は「鍵山教師塾」の研修に参加させていただき、多くの学びと素晴らしい出会いをいただきました。

研修では、トイレ掃除は単に汚れを落とす作業ではなく、「小事をおろそかにしない心」「気づく力」「謙虚さ」「感謝の心」を育てる実践であることを学びました。特に、姿勢を低くして掃除に向き合うことが、自分自身の心を見つめ、謙虚な姿勢を養うことにつながるというお話は、実際に掃除をする前と後の心持ちがこんなにも違うものかと自分自身驚きました。

また、「足るを知る」という考え方にも深く共感しました。物を大切に扱い、必要以上に求めず、今あるものに感謝する姿勢は、日々の生活だけでなく、教育や看護の現場にも通じる大切な心構えであると感じました。

私は看護教員として生徒と接していますが、知識や技術だけでなく、人としての在り方や気づく力を育てることの大切さを改めて考える機会となりました。現在病院実習の最中であり、患者さんや周囲への小さな気配り、物を丁寧に扱うこと、誰も見ていないところでも誠実に行動することなど、日々の小さな積み重ねが信頼につながることを、生徒たちにも伝えていくところです。

研修を終えてからも、教えていただいた理念について振り返る時間を持つことができました。その中で、学びとは知識を得るだけではなく、自分自身はどのように実践し、どのような人間でありたいのかを考え続けることでもあると感じました。今回の研修は、自身の価値観や教育者としての在り方を見つめ直す、大変貴重な機会となりました。

このご縁に感謝するとともに、今回学んだことを一時の経験で終わらせることなく、日々の生活や教育現場で実践し、一つひとつの小さな行動を大切に積み重ねていきたいと思っています。この度は貴重な機会を与えて頂きありがとうございました。

★★ 京都府・京都掃除に学ぶ会・秦 由見子 ★★

今回の研修では、「教化ではなく感化」をテーマに、一日目の牟礼中学生と北島先生の実践報告、幸一郎さんのご講義と牟礼中学校でのトイレ掃除実習を通して、多くの学びを得ることができました。

とくに、牟礼中学校の中学生が実践発表をしてくださったことは、朴の森での教師塾が始まって以来、大きな前進であり、教師塾以外でも、山口掃除に学ぶ会の皆様がトイレ掃除を通して牟礼中学校との信頼関係を積み重ねてこられた成果の一つではないかと感じました。

生徒の皆さんの発表からは、掃除の技術だけではなく、仲間を思いやる心や、日々の生活に学びを生かそうとする姿勢が伝わってきました。その姿は、私たち大人にとっても多くの気づきを与えてくれるものであり、まさに「教化ではなく感化」を体現しているように感じました。

また、グループごとに参加した目的やきっかけを話し合う時間がありました。その中で、牟礼中学校の生徒の皆さんから「山口先生」というお名前が何度も挙がったことが、とても印象に残っています。

中学生の言葉からは、山口先生への信頼や尊敬が自然に伝わってきました。それは、言葉で教えるだけではなく、日頃の姿勢や実践を通して、生徒たちの心に働きかけてこられた結果なのだと思います。

幸一郎さんのご講演で「自己中心ではなく、他人を思いやる気持ちを持つこと」というお話があったように、私たちは日々、自分の考え

や都合を優先してしまいがちですが、まず相手の立場や気持ちを考え、何を求めているのかを想像することが、人との信頼関係を築く第一歩であると改めて感じました。

また、「当事者意識を持つこと」と「人を信じること」の大切さも印象に残っています。問題を誰かのせいにしたり、「誰かがやってくれる」と考えるのではなく、自分自身が一歩踏み出すこと。そして、すぐに結果を求めるのではなく、人の可能性を信じ続ける姿勢が、周囲に良い影響を与えていくのだと学びました。

北島先生のお話で、人は困難に直面すると「Fight（対立）」「Flight（逃避）」「Freeze（固まる）」という反応をとりやすいというお話もありました。しかし、そのような場面だからこそ、相手の可能性を信じ、誠実に向き合い、自ら一歩を踏み出し、すぐに成果がでなかったとしても、少しの変化に目を向けて実践し続ける根気強さや勇気を学びました。

牟礼中学校でのトイレ掃除実習では、今回3回目ということもあり、トイレ掃除を経験している生徒さんも多く、自ら率先して掃除に取り組む姿や、素直な思いを語る姿に心を打たれました。教える立場、教えられる立場という関係ではなく、お互いの実践から学び合うところが「感化」なのだと実感しました。

今回の研修を通して、「教化ではなく感化」とは、言葉で人を変えようとするのではなく、まず自分自身が実践し、その姿によって周りの人の心を動かしていくことなのだと、改めて感じました。これからも掃除や日々の生活の中で、他人を思いやる心を忘れず、自ら

実践を積み重ねることで、周りによい影響を与えられる人を目指していききたいと思います。

★★ 福岡県・一般・堀江 直樹 ★★

二日間の教師塾に初めて参加させていただき、誠にありがとうございます。

教員でもなく、掃除に学ぶ会にも所属していない私を温かく迎えてくださり、多くの学びをいただけたことに心より感謝申し上げます。今回の研修を通して、私が最も学んだことは「実践することの大切さ」と「素直になることの大切さ」の二つです。

一つ目は、実践することの大切さです。

鍵山幸一郎さんから「実践しなければ意味がない」というお話がありました。学んだことや気づいたことも、実践しなければ「知ったつもり」「できたつもり」で終わってしまうという言葉が強く印象に残っています。私は一日目に座学を受けた時点では理解したつもりになっていました。しかし、二日目に実際にトイレ掃除を経験したことで、その意味を身をもって感じました。特に印象に残ったのが、「後始末は前準備」という言葉です。一日目は頭では理解できても、その本当の意味までは分かっていませんでした。掃除後に道具を一つひとつ丁寧に洗い、水気を拭き取り、乾燥させ、元の位置へ戻す。この一連の後始末を妥協なく行うことで、道具は長く大切に使うことができ、本来の力を発揮できます。

さらに、掃除前には使用する道具をリスト化し、数量を確認し、グループごとに分けて準備することで、後片付けの際の紛失防止や確認作業の効率化につながっていることにも気づきました。こうした一つひとつの工夫は、多くの実践を積み重ねてこられた方々の知恵の積み重ねであり、実際に体験したからこそ理解することができました。

また、掃除中も「もっと良い方法はないか」とチーム全員で知恵を出し合い、その場でもやり方が改善されていく姿を目の当たりにしました。実践するから気づきが生まれ、気づきが知恵となり、その知恵をまた実践することでさらに良くなっていく。この循環こそが成長なのだと感じました。

さらに、実践にはもう一つ大きな意味があると感じました。それは、人に影響を与える力です。一日目の実践報告では、牟礼中学校の生徒の皆さんや北島先生のお話を伺いました。立場や環境は違っても、実際に行動したからこそ周囲の人を巻き込み、大きな変化につながっていました。「こうしたい」と思うことや言葉にすることはできません。しかし、行動しなければ何も変わりません。私自身も、本気で何かを変えたいのであれば、実践することまでを一つのセットとして取り組んでいきたいと思いました。

二つ目は、素直になることの大切さです。

二日目の実践では、小学生から人生の大先輩まで、幅広い世代の方々と一緒に掃除をさせていただきました。年齢や経験に関係なく、それぞれが知恵を出し合い、良いと思ったことは素直に受け入れ、

★ ★ 京都府・京都掃除に学ぶ会・松岡 孝司 ★ ★

すぐに実践されていきました。そこには否定する雰囲気はなく、「やりやすいですね」「先ほどより良くなりましたね」といった前向きな言葉が自然と飛び交い、とても温かい空気が流れていました。皆さんが見ていたのは、自分ではなく「より良い掃除をする」という共通の目的でした。

この姿勢は、私自身にとって大きな気づきでした。私はこれまで、「相手にどう思われるだろう」「お節介ではないだろうか」と考え、自分の気持ちを素直に表現できないことがありました。しかし、それは相手のためではなく、自分を守るための考え方だったのだと気づきました。本当に相手やチームのことを考えるのであれば、目的に向かって素直に関わり、より良くするための行動を取ることが大切なのだ学びました。

今回の研修を通して、私の今後の課題は「実践すること」だと明確になりました。

将来実現したいことに向かって、小さなことでもまず行動し、実践を積み重ねていきます。そして、自分の周りから少しずつ良い影響の輪を広げられるよう、この一年を大切に過ごしていきたいと思えます。

最後になりますが、このような貴重な学びの機会をいただきました鍵山先生をはじめ、ご指導くださった講師の皆様、運営の皆様、そして二日間ご一緒させていただいた皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

はじめに、このような貴重な学びの場を設けてくださり、事前の準備や会場設営、当日の運営にご尽力いただいた朴の森の関係者の皆様、運営委員の皆様に、心よりお礼申し上げます。随所に行き届いた心配りのおかげで、安心して二日間の研修に参加し、多くのことを学ぶことができました。帰り際、私たちの姿が見えなくなるまで手を振って見送っていただいたことも、温かな思い出として心に残っています。

今回の鍵山教師塾への参加は、申込みの締切後にホテルのキャンセルが出たことで、急ぎよ実現しました。当初は参加が難しいと思っていただけに、参加できると分かったときは、本当に幸運だと感じました。このようなご縁をいただいたことに感謝の気持ちで参加しました。

まず最初に、保育園「慈愛の里」での実践についてお話をうかがいました。慈愛の里では、子どもたちの食事に地元の萩焼の器を使っているとのことでした。陶器は落とせば割れるため、危ないから子どもには使わせないという考え方もあります。しかし、大人が「子どもにはまだ無理だ」と決めつけるのではなく、ちゃんと伝えて、子どもの理解する力や行動する力を信じ、実際に経験させることが大切なのだと思います。本物の器に触れ、丁寧に扱う経験を通して、物を大切にする心も育まれていくのだと感じました。

次に、掃除道具庫を案内していただきました。中に入ったときの

第一印象は、「一朝一夕でこの形にたどり着いたものではない」ということでした。道具はただきれいに並べられているのではなく、使いやすい、取り出しやすさ、戻しやすさが細部まで考えられ、必要なものが一目で分かるように整えられていました。特に、棚や棒などの収納器具には既製品ではないものもあり、道具の大きさや使い方に合わせて自作されていたことが印象的でした。実際に使う中で生じた不便を一つずつ見つけ、その都度、工夫と改善を重ねて現在の形にたどり着いたのだと思います。見た目を整えるためだけの美しさではなく、長年の実践から生まれた「実用的な美しさ」があり、掃除道具を大切に作る姿勢と、次に使う人への心遣いが表れていることに感動しました。

さらに、水をためる際にホースを固定するための器具について説明は工夫の象徴のように感じました。ホースを人が手で持ちながら水を注いでいたらその間はほかの作業ができませんがホースが外れたり動いたりしないように固定する器具を取り付けることで、水をためている間にも別の準備や作業を並行して進められるとお話をうかがいました。鍵山相談役との思い出を交えながら、その工夫が生まれた経緯や効果を具体的に伺えたことで、目の前の小さな不便を見過ごさず、より良い方法を考え、実際の形にしていく姿勢がよく伝わってきました。単なる便利な器具ではなく、限られた時間を有効に使い、周囲の人が動きやすくなるように考えられた改善であり、細部にまで行き届いた実践の積み重ねを感じました。

続く実践報告では、牟礼中学校生徒会の取り組みと、北島先生に

よる沖縄の中学校での実践についてうかがいました。牟礼中学校の生徒さんたちの相手の話を受け止めようとするその傾聴姿勢は、私自身も日常の仕事や人との関わりの中で見習いたいと思いました。北島先生が、学校が厳しい状況にある中で、掃除への参加を呼び掛けられたことに、大きな勇気を感じました。写真を拝見してなんともいいがたい校舎の写真を拝見する中で、自ら行動し、さらに人に働き掛けることは、簡単にできることではないと感じました。その一歩を踏み出し、実践を続けてこられた姿に心を動かされました。「教化より感化」という言葉のとおり、人は指示や説明だけで変わるのではなく、真剣に取り組む人の姿に触れることで、自ら何かを感じ、行動し始めるのだと思います。

鍵山幸一郎さんの講義では「嫌なことではなくせないが、良いことは増やせる」という言葉も心に残りました。嫌なことや問題をすべてなくすることはできなくても、自分の行動によって良いことを一つ増やすことはできます。牟礼中学校や北島先生の実践は、まさにその言葉を行動で示しているように感じました。

二日目は、牟礼中学校で実際にトイレ掃除を行い、私は小便器を担当しました。タイヤレバーで尿石を軽くタッピングすると、固く付着していた尿石がザクザクと崩れるような状態になり、そのときに手へ伝わった感触、音、匂いが今も残っています。便器に同化していた如き汚れも、実際に自分の手を動かすことで、その厚さや頑固さを実感することができました。少しづつ尿石が落ち、便器本来の表面が現れていく様子に、五感を通して確かに変わっていく喜びを

感じました。

また、同じ場所と一緒に手を動かすうちに、年齢や立場に関係なく、自然と（自分の中で）仲間意識が生まれました。中学生の男子生徒とも、同じ目標に向かって掃除に取り組む仲間として接することができました。掃除という共通の実践を通して、世代を越えて心を通わせることができたように感じました。

掃除の進行では、リーダーとサブリーダーの役割分担が明確で、全体への説明と個別の指導が行き届いていました。また、限られた時間の中で何を優先し、どこまで仕上げるのかを見極めておられました。すべてに手をつけて中途半端に終わるのではなく、時間内にできることを判断し、確実に進める姿勢は、日常の仕事にも通じる学びでした。

今回の経験を、職場での具体的な行動につなげたいと思います。特に、皆が面倒に感じ、誰かがやるだろうと後回しにしていることを、自分から率先して行います。例えば、会議後に椅子を元に戻すことが忘れられた状態になっていたり、共有スペースの乱れに気づいたら整えること、担当が曖昧な書類やデータを放置せず、次の人が使いやすい状態に整理することです。小さなことであっても、誰かが始めなければ良い状態にはなりません。その次に社内の困りごとの解決に取り組みます。

今回いただいた感動を一時的なものにせず、まず自分が動き、職場の中に良いことを一つずつ増やしていきたいと思います。

★★★ 石川県・一般・坊谷 和昌 ★★★

鍵山教師塾 in 朴の森「教化ではなく感化」に参加させていただき、大変お世話になりました。有難うございました。前泊も含めて濃い、濃い三日間の中で学ばせいただき有難うございました。

「ザアー、ザアー、ザアー・・・」旅の始まりは雨。

生まれて初めてのダブル台風の影響で、新大阪で約二時間少々の足止め。

初めてのことで最初は戸惑うも、この状況の中で、鍵山秀三郎様はどのようなことを考えられ、どのように行動されるのか、自分なりに考えながらすぐす機会をいただきました。

生きた実践の場をいただき、二日間への想いが膨らみました。

初日、朴の森に向かう直前の草の刈られた場・磨かれたガードレールに感動しました。そして、手を振って迎えてくださる姿に感動。手を振って迎えてくださることはこんなにも嬉しいのだと感じさせていただきました。私も手を振っていいこうと思います！館内はどちらも明るく、優しい木の香りが漂い、凜とした佇まい。場が呼吸し、生きていくように感じました。また、言葉で表現することが難しいのですが、何か大きな力に守られているように強く感じました。午後の発表では、牟礼中学校学生による発表に感動！本当に感動すると言葉にならないということを感じました。北島先生の発表では掃除の持つ力を感じさせていただきました。

チームごとの発表では、それぞれの立場で掃除を実践されている

方の生きた言葉に感動しました。

二日目のトイレ掃除実習。チーム内でのアイスブレイクが良い感じに終わり、初めての女子トイレ掃除&素足で挑戦させていただきました。

「シャカシャカ」磨くチームの奏でるハーモニーが心地よく、磨けば磨くほどに団結力が高まり、一体感が増しているように感じました。いつまでもこのチームで演奏をしたいと感じました。

終わった後の明るい爽やかな清々しさ、最幸です！

窓の外は突き抜けるような夏の空、ゆずの「夏色」が私の中で流れていました。

濃い、濃い三日間をすごさせていただきありがとうございました。

御縁をいただきましてありがとうございます。

また、朴の森に帰ってきたいな。

「いってきます」

★★ 広島県・呉掃除に学ぶ会・木村 孝代 ★★

鍵山教師塾に参加し、私の心に特に深く残ったことがあります。

それは、牟礼中学校の生徒の皆さんとの出会いです。

初日に、「この聞く姿勢を見てください」と声をかけていただきました。

牟礼中学校の生徒の皆さんは、話す人へ自然に体を向け、真剣に耳を傾けていました。

その言葉を聞くまで、私はその素晴らしさに気づいていませんでした。しかし、相手に体を向け、まっすぐ耳を傾ける姿に深く心を打たれました。

また、牟礼中学校では、中学3年生になると立志式が行われ、その立志式に向けて学校中のトイレを掃除するという素晴らしい取り組みをされていると伺いました。

掃除を通して場を整えるだけでなく、自分自身の心も磨かれている。そのことを、生徒の皆さんは日々の姿で示してくださっているように感じました。

グループワークでは、中学生と同じチームになり、「志を教えてください」と尋ねる機会がありました。

その話を聞き、私はさらに心を動かされました。

そして、「志は高校生になっても続けるの」と尋ねると、「もちろん、ずっと続けます」と力強く答えてくれました。

その言葉からは、より良い世の中をつくろうとするまっすぐな思いと、山口先生との出会いへの感謝が伝わってきました。

さらに、「来年もこの会に参加して、トイレ掃除に来ます」と明るい笑顔で話す姿に、胸が熱くなりました。

各チームの発表では、中学生が自ら舞台の中央まで進み、堂々と発表する姿にも心を動かされました。

その姿からは、「この学びの場を自分たちでつくっていいこう」という主体性と、周りへの思いやりが伝わってきました。

一方で、大人である私たちは、前に出ても舞台の端の方から話し

ていました。

その姿を振り返り、私たち大人も、この場を共につくる一人として、もっと周囲への配慮が必要なのだと気づかされました。

皆さんにしっかり声が届き、思いが伝わるように、舞台の中央に立ち、少し大きな声で話すことも、相手への思いやりなのだと学びました。

今回の研修では、中学生の皆さんの姿から、本当に多くのことを学ばせていただきました。

また、スタッフの皆さまのお心遣いにも深く感謝しております。

台風の影響まで見据え、参加者全員が安心して学べるよう細やかに配慮してくださったことから、この研修に込められた温かな思いを感じました。

このたび、このような素晴らしいご縁と学びの機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

今回学ばせていただいたことを、私自身も日々の実践の中で生かし、一人でも多くの方へ伝えてまいります。

心よりありがとうございます

★★ 東京都・東京掃除に学ぶ会・平本 あかね ★★

2日間、鍵山幸一郎さんをはじめ、運営スタッフの皆様、朴の森のスタッフの皆様には、事前の準備から当日の運営まで多くのお力添えをいただき、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、こ

のような素晴らしい研修に参加することができ、心より感謝しております。

今回の研修を通して、私が最も学んだことは「視野を広げることの大切さ」です。小便器を掃除している際に、「ここも汚れているよ!」と声をかけていただき、自分が目の前しか見えていなかったことに気づきました。その経験から、一つのことだけに目を向けるのではなく、全体を見ることが新たな課題に気づき、それに向き合うことができるのだと実感しました。

この学びは、私が取り組んでいる秘書業務にも生かせると感じています。その日だけを見るのではなく、2〜3日後、さらに1週間後まで見通して準備を進めることが大切だと学びました。朝にその日の予定を確認し、夜には数日先の予定まで見直す習慣を身につけ、実践していきます。

また、「まず実践してみること」の大切さも学びました。身体を三点で支える姿勢では安定感が生まれ、二点で支えると身体が不安定になり、掃除にも集中しにくくなることを実際に体験しました。知識として知るだけではなく、自分でやってみることで初めて理解できることがたくさんあると感じました。まずは行動し、その経験をもとに改善していく姿勢を大切にしていきます。

さらに、準備とチームワークの重要性も強く感じました。掃除が円滑にできたのは、事前に道具を準備してくださる方や、使用後に片付けや手入れをしてくださる方がいたからです。当たり前に使えているものの裏側には、多くの方々の支えがあることを実感し、感

謝の気持ちがより深まりました。また、スタッフの皆様が飲み物や名札、おにぎりなどを準備し、最後まで温かく声をかけてくださる姿から、「相手を思いやる行動」が温かい空気をつくるのだと学びました。

特に印象的だったのは、中学生の皆さんの姿です。積極的に発言し、掃除にも主体的に取り組み、自分の意見を堂々と伝える姿がとても印象に残りました。また、先生方への感謝や尊敬の言葉が自然と出てくる様子から、日頃から認められ、大切にされていることが伝わってきました。参加されていた先生方も、一人ひとりの名前や特徴を覚え、小さな成長を見逃さずに声をかけておられました。

私自身も掃除中に「姿勢が良くなっているね」と声をかけていただき、自分では気づけなかった変化を知ることができました。その一言が、「もっと頑張ろう」という大きな力になりました。ほめることには、人の可能性を引き出し、行動する力を生み出す大きな力があることを改めて実感しました。この経験も、私が取り組んでいる「ほめ活」の中で、多くの方へ伝えていきたいと思っています。

今回の研修を通して、お掃除は単にきれいにするための活動ではなく、自分自身と向き合い、人への気づきや感謝の心を育てる時間であることを学びました。そして、その気づきが相手の良いところを見つけることにつながり、ほめることや温かい人間関係を育んでいくのだと感じました。

この学びを今後の秘書業務や交流会、そして「ほめ活」の活動に生かし、一人でも多くの方の良さに気づき、それを言葉にして伝えら

れる人であり続けます。

2日間、本当にありがとうございました。

★★ 山口県・一般・河向 ひろみ ★★

5月のお掃除研修に引き続き、今回初めて教師塾に参加させていただきました。

この日のために計画・準備をしてくださった幸一郎さん、朴の森・一隅の郷のスタッフの皆様、実行委員会の皆様、本当にありがとうございました。また、研修の場をご提供くださった牟礼中学校の皆様にも、心より感謝申し上げます。

今回の研修で、私にとって最も大きなパラダイムシフトは、「自分自身が子どもと大人を無意識に線引きしていた」ということに気づけたことです。

私は「ゆとり世代」と言われる中で学生時代を過ごし、「最近の若者はゆとり世代だからね」と一括りにされながら育ってきました。もちろん、自分自身に至らない部分が多かったことも事実です。しかし、その経験を無意識のうちに基準として、子どもという存在を見ていたのだと気づきました。そして同時に、これからの日本の可能性にも大きな希望を感じました。

私はこれまで、「まだ早いだろう」「まだできないだろう」というような、大人が子どもより上に立つ価値観は手放せていると思っていました。しかし実際には、親として、そして教育に携わることを選ん

だ一人として、まだ危ういフィルターを持っていたことに気づかされました。その価値観は、子どもの可能性だけでなく、大人自身が学ぶ機会さえ奪ってしまうものだったのだと思います。

牟礼中学校の皆様の発表や、一緒に行ったお掃除でのコミュニケーションを通して、純粋に「伝えたい」という思いが持つ力と、子どもたちの柔軟さに深く心を動かされました。気づけば涙が止まらなくなっていました。

また、北島先生の学校での実践発表では、子どもたちの素直さと、それに本気で向き合う大人の思いが重なったとき、人はここまで変わるのだということを目の当たりにし、大きな感動を覚えました。

「何からも学ぶ、誰からも学ぶ」、そして当たり前のことを徹底してやり抜く。その姿勢が周りの人の人の行動を変え、さらに新たな実践へとつながっていく。そんな前向きな循環を実際に見ることができました。

実践編では、お掃除研修とはまた違った学びがありました。大人数で、初対面の方も多い中、どのように同じ目的へ向かい、それぞれが役割を果たし、リーダーシップを発揮していくのか。皆様の姿から学ぶことはもちろん、自分自身が実践する中でも多くの気づきがありました。そしてここでも、「できているつもり」「伝わっているつもり」という「つもり病」が、自分の癖として残っていることに改めて気づくことができました。

さらに、お掃除道具の最後の片付けにも偶然携わらせていただく機会をいただき、本物のチームワークとはこういうことなのだと強

く感じました。会場や道具の片付けまで拝見したことで、この研修がどれほど多くの時間と労力、そして多くの方々の思いによって支えられていたのかを知ることができました。

私は以前から「見えない背景まで想像し、感謝すること」を大切にしたいと思っていました。しかし今回、それはまだ十分ではなく、もっと想像力を磨く余地があることも実感しました。

まだまだ書きたいことは尽きませんが、このあたりで終わりにしたいと思います。

今回の学びを、その場限りの感動で終わらせることなく、実践し、振り返り、共有し、修正し、また実践する。その積み重ねを、日々の子育てや人との関わりの中で続けていきます。

最後になりましたが、2日間ご一緒してくださった皆様に心より感謝申し上げます。また教師塾でお会いできる日を楽しみにしております。